

令和3年度 第5回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和4年3月24日(木) 午後2時から3時35分まで
- 2 会 場 中央図書館 3階視聴覚室
- 3 出席者 委員：8名(欠席4名)
事務局：中央図書館長、中央図書館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
資料担当係長、歴史公文書担当係長、大沼図書館長 (計6名)
- 4 傍聴者 なし
- 5 配付資料
- ・図書館行事等の報告と今後の予定 (資料No. 1)
 - ・令和4年度小平市立図書館事業計画(案) (資料No. 2)
 - ・令和4年度小平市図書館協議会日程(案) (資料No. 3)

6 議事

(1) 報告事項

① 図書館運営状況について

- ・図書館行事等の報告と今後の予定 (資料No. 1)

1月21日から3月21日まで、東京都ではまん延防止等重点措置の適用となったが、小平市立図書館は一部の事業を除き通常開館した。

2月9日、ブックスタート事業に携わるボランティアの方々を対象とした講演会を開催。

2月26日から喜平図書館、及び中央図書館で、郷土写真展「1981 私たちのまち「小平」」を開催。喜平図書館が開館した40年前の写真の展示を行っている。

3月に再開を予定していた「絵本のへや」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により全館で休止とした。

3月3日、オンラインイベント「かがくあそび おとであそぼう」を実施。

3月30日、中央図書館でハンディキャップサービス交流会を予定している。また、4月2日から5月18日まで「こだいら子ども読書月間」として、全館で様々な行事を予定している。

② 3月市議会定例会について

- ・一般質問では、図書館関係で2件質問があった。

1件目は、佐藤徹議員からの質問「ウィズコロナ時代の地域センター・公民館・図書館のあり方を問う」があり、図書の宅配貸出しの利用要件を要介護1以上の方から、一般の高齢者等も利用できるよう要件緩和を進めるべきという趣旨の質問であった。

答弁として、宅配貸出しのサービスについては、来館が困難な利用者全般への拡大を検討しているが、ボランティアとの協働により進めていることから、拡大に当たっては一定数のボランティアの確保や、利用申込みの受付、配送を調整する業務の見直し等が必要である。他市の事例等を参考に検討すると答弁をした。

2件目は、岡田しんぺい議員からの質問で「市主導で声を活用した事業を展開すべき」があり、現在行っている絵本の読み聞かせや朗読など、声を活用した取組にはどのようなものがあるか。また、絵本の読み聞かせや朗読について、どのような効果や影響、需要があるか。さらに、プロのナレーターや声優を起用した文学作品等の音声データを作成、管理し、利活用するのはいかがかという趣旨であった。

市は、ブックスタートやおはなし会等、職員やボランティアが子どもに読み聞かせをする事業のほか、活字による読書が困難な方を対象とした対面朗読や、ボランティアの朗読による録音図書の作成、刊行物の音訳版の作成などを行っている。録音図書は、視覚障害者のためにCD-ROMで作成したデージー図書を累計で50点程度作成したほか、図書館のハンディキャップサービス案内などの音訳版を作成している。絵本の読み聞かせや朗読などの効果や需要についての認識として、子どもへの読み聞かせは豊かな感性をはぐくみ、読書好きの子どもを育てる効果があり、対面朗読や録音図書の作成は、高齢者や視覚障害者に読書の機会や情報獲得の手段を提供する効果があると考えている。読書におけるバリアフリーが求められる中、耳で聴くことのできる読書方法は今後需要が高まると認識している。プロのナレーター等を起用した文学作品等の音声データの利活用については、朗読者に報酬が支払われる場合、著作権法上の口述権の制約により、著作権者の許諾が必要になることなど課題も多く、利活用は難しいとの答弁をした。

また、3月8日から11日にかけて行われた予算特別委員会では、教育部の審査の中で図書館について何件か質問があった。

1件目は宅配貸出しサービスの拡大に関して。請願が採択されて2年が経過し、実施に向けた動きを問われ、市は対象の拡大に向けて検討を続けていると答弁した。

2件目。図書館、公民館での公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備予定について問われ、令和4年度予算での計上はないと答弁した。

3件目。図書館の開館時間の拡大等について問われ、職員体制や機器類の調整も必要で大きなテーマとなるので今後の検討課題としたい旨答弁した。

4件目。特定歴史公文書について、今後どのような取組を行うかという問いに対し、令和4年度予算では、整理を行う会計年度任用職員の人件費、文書を保存する中性紙の文書保存箱の購入、業務内容としては選別基準や利用規則の策定を予定していると答えた。

5件目。図書館協議会で議論され、令和4年度に予算化された事業はあるかとの問いに対し、具体的なものはないが、大きな事業を行うときには協議をお願いしていきたいと答えた。また、電子書籍など図書館のDXについても問われ、小平市としてどのような電子サービスを導入するのがよいか検討する旨答弁した。

(報告事項についての質疑・応答)

なし

(2) 協議事項

① 令和4年度小平市立図書館事業計画(案)について(資料No.2)

小平市立図書館は毎年、事業計画を策定し、計画に基づき事業を行っている。

基本方針をまとめ、7つの主な施策を掲げた。3ページ以降には、具体的な実施事業を掲げている。

1、図書館資料の充実では、引き続き資料の収集、整理、保存に力を入れていく。令和4年度予算では、新聞雑誌等は、27万2千円増の1,123万円、書籍は、117万円増の3,817万2千円を計上した。

2、歴史的資料の総合管理・提供体制の検討では、市民の郷土理解を深めるために地域に関する資料及び古文書の収集、整理、記録及び保存を行う。令和4年度は、東京都の指定有形文化財(古文書)に指定されている小川家文書、(元和4年(1618)～大正年間(1926))約1万点のうち40点強について、東京都の補助事業を活用し補修する。

3、レファレンス機能の充実は、利用者の資料相談に対応するために、各種辞典、事典、目録、索引、年鑑、統計書、法規類集及び文献等を整備し、サービスの充実を図っていく。また、講座、講演会、その他読書に係る行事や展示会の開催などを行う。

4、子ども読書活動の推進では、乳幼児から児童、青少年までを対象に「絵本のへや」や「おはなし会」、こだいら子ども読書月間の行事や絵本展示の開催、おはなし室の開放等により、本に親しむ機会を提供したり、夏休みのおすすめ本等のブックリストの作成、配布を行う。また、読み聞かせに携わるボランティアを対象に、読み聞かせ実践講座を実施する。さらに職員等に向けおはなし学習会を実施し、質の高いおはなしを提供したい。さらに、中高生を対象に、なかまちテラスティーンズ委員会の活動を充実させ、ティーンズ世代の読書活動を推進したい。

5、学校図書館の支援の充実では、仲町図書館を中心として、学校図書館システムの活用支援や、学校図書館との連携を進め、学校図書館を活性化します。また、この2年間コロナの影響で実質的に休止していた図書館見学、実習生や職場体験等の受入れを進め、図書館事業に対する理解を推進するとともに、将来の図書館を担う人材の育成を図るため、図書館見学や実習生及び職場体験等を必要に応じて受入れる。

6、ブックスタートの実施では、3～4か月児健康診査時に、絵本を手渡すブックスタートを実施し、絵本を介して親子がふれあうひとときを持つきっかけづくりと、図書館の事業の紹介を行い、将来にわたり本と親しむ環境を整備する。この2年間、読み聞かせは休止していたが、読み聞かせの一部再開など、新型コロナウイルス感染の収束状況に応じて行いたい。

7、使いやすい図書館の運営では、職員研修やボランティア活動などを状況を見ながら回復させていきたい。また、令和4年度は令和3年度に大幅に縮小していた図書清掃の委託費を全館で復活し、439万1千円を計上する。

8、公文書館機能の充実について、小平市公文書等の管理に関する条例が令和4年10月から施

行されるので、市の公文書管理の適正化に合わせて、図書館における地域資料の収集の蓄積を活かして歴史公文書等を有効活用するための保存と管理を行う。

② 令和4年度小平市図書館協議会日程（案）について（資料No.3）

令和4年度の開催は6回の予定とする。

（協議事項についての質疑・応答）

委員：図書館事業計画の位置づけは市民に対する公表を前提とした計画か、それとも職員の共通認識の意義なのか。

事務局：図書館事業計画は、小平市図書館協議会で承認されれば、図書館のホームページで公表する。

委員：文章に「推進」、「充実」という表現が多く、具体的に何を行うかが見えにくい。

会長：現段階では案であり、本協議会の意見を反映し修正すべき。市民に理解を得られるよう、文章の表現をもう少し具体的にしたいほうがよい。

委員：ビジネス支援図書館推進協議会という組織があるようだが、それは何か。また、小平市は加入しているのか。

事務局：小平市では、花小金井図書館に就労支援や就職活動に役立つ情報を提供するコーナーを設けているが、都道府県立図書館が多く加入するビジネス支援図書館推進協議会には現在加入していない。

委員：花小金井図書館を先日見に行った。ビジネスのほかに就職活動の図書等もあり、ビジネスに特化していないように感じた。起業相談を行っている産業振興部署や小平商工会との連携、も考えるとよいと思う。花小金井図書館には、インターネット端末が1台のみで、公衆無線LAN（Wi-Fi）も整備されていない。ビジネス支援といっても利用者が使いにくい環境である。

事務局：現状では課題が多く、検討していかなければならない。

会長：予算があれば、計画(案)3(1)③公衆無線LAN（Wi-Fi）サービスの提供の項目に、花小金井図書館を加えたり、⑤ビジネス支援に関する情報提供に、他部局や他市との連携といった事を加えてほしい。

委員：次年度予算でもいいので、民間との協働も書かれてはどうか。レファレンスの充実以前に、レファレンスについての広報が不足している。

委員：利用していない人に対して、情報の発信など展開する必要がある。

委員：良いイベントもあり充実しているが、実際には参加者が少なく残念に思う。包括的、体系的に広報をどうしていくのか、時代に即した広報の方向性を出す必要があるだろう。またイベントの成果とは何か、具体的にデータを挙げるなど、その検討には特化したプロジェクトチームを設けて取り組むべきだと思う。

事務局：広報については課題が多い。コロナ禍でもあり、今までどおりのやり方で良いものと、やり方を変えなければならない事業がある。ホームページについても、見てほしい年齢層にわかりやすいよう工夫したい。

会長：講演会やおはなし会など、対象となる児童等に学校を通じてチラシ配布ができないか。イン

- ターネットの時代であっても、紙での配布は重要ツールであり、学校との連携は大事である。
- 委員：学校図書館相談員とは、どのような仕事を担っているのか。
- 事務局：学校図書館相談員は仲町図書館に2名いる。市内小・中学校に巡回し、27校の学校図書館協力員に選書や図書館システムの使い方等、様々なアドバイスを行っている。
- 委員：市民団体等が自主的に作成した図書や資料は、図書館で積極的に収集しているのか。
- 事務局：地域資料の収集は行っている。市民団体が発行する個々の出版物について、全ての情報は捉えてきれない。選定基準に沿った貴重な資料があれば、図書館としても収集していく。
- 委員：市内在住の作家が自身で持ち込む資料は少ないと思うので、市報等で広報するといいいのでは。小平市は、古文書など古い資料は充実しているが、現代の資料は積極的に収集していないように感じる。チラシ等も歴史的資料になり得るので、市民団体等のものも体系的に収集できるとよい。デジタル化して収集するのも効率的である。
- 事務局：図書館でもチラシやポスターをできる範囲で集めているが、マンパワーを伴う部分もあり、課題である。
- 会長：古文書だけでなく、現在の資料も必要である。
公文書の収集基準はできているのか。
- 事務局：令和4年度に施行される。
- 会長：事業計画には、ぜひ他部署との連携を記してほしい。
それから現在、市報に図書館のイベントを掲載できる枠はどれほどあるのか。
- 事務局：市報の紙面に限りがあるため、図書館の枠は持っておらず、事業があればその都度掲載を依頼している。
- 委員：来年9月、上水南町（文化学園大学の跡地）に、950名規模の全寮制のインターナショナルスクールが開校すると聞いた。外国の方々への対応も検討したほうがよい。
- 事務局：外国人向けの資料提供等は十分ではないが、外国人向けのサービスも含め研究していきたい。
- 委員：インターナショナルスクールは、小平市教育委員会の指導管轄下で運営される学校でなく、自治体の図書館や公立学校との交流は決して多くはない。例えば、イギリスの学校がそのまま日本にあるような感じで、学校図書館も充実しているものと想定できる。我々から交流に力を入れることは、見方を変えれば効果的でないともいえる。
- 会長：図書館では、どの言語の図書がどこにあるかなど、資料の配置の工夫など考えるとよい。
- 委員：地域との交流といえば、学園西町に国際交流協会がある。先日、ウクライナ支援イベントに参加した。国際交流協会を通じ、地域の外国人との交流はできるかもしれない。
- 委員：いま学校現場では学校評価計画、及び学校評価報告書の作成と公表が求められている。これは、取組目標と成果目標を4段階で数値化し、評価してホームページで公表するものである。とても大変ではあるが、評価計画・報告書の良い点は、何をしたいのか、どうやって到達させるのか（具体的方法）、結果としてできたのかを数値化し公表するので、理解がしやすい。そもそも教育活動が数値化できるのか、という課題はあるが、「推進」・「充実」など曖昧な表現ではなく、変えるために何をを行い、その結果うまくいったかどうかを明確にしている。
- 委員：事業計画（案）のうち、ハンディキャップサービスの推進では、来館困難者へ郵送や宅配による貸出しを行いますと言い切った表現となっている。そこは是非、実現させてほしい。

事務局：宅配サービスについては内部調整を行っている段階なので、決まったら本協議会に報告したい。

会長：計画に載せる必要はないが、宅配ボランティアに関しては、ボランティアの手法だけでなく、宅配（郵送）を活用してもいいのではないかと思う。

委員：ウィズコロナ時代に合わせ、感染の有無に関わらず協議会6回のうち、1回くらいリモート（ZOOM）での開催もしてほしい。

(3) その他

会長：おはなし会等の図書館行事が定期的に市報に掲載されるよう、関係部署に働きかけてほしい。

事務局：新型コロナウイルス感染症の状況次第で、直前にイベントが実施できない状況もある。

会長：まとめた形でもいいので市報に掲載してほしい。

委員：図書館の利用カードを忘れた際に、利用者が申請書を書いているが、小金井市では、運転免許証を見せるだけで申請書を記載する必要がない。小平市も同様に簡素化できないか。

事務局：知る範囲では、申請書の記入を求める市が大多数だと思う。図書館としては、記録を残す意味もあるので、記載していただいている。現在は、事前登録すれば FeliCa カードとして PASMO、Suica も利用できるようになった。

委員：2月5日の読売新聞に、電子書籍の記事が載っていた。中央線沿線の市が多いように感じた。また、電子書籍でも人気のある本は待つ期間が長いと記事には書かれていた。

事務局：電子書籍もリクエストしてから何十人待ちはある。紙資料と同様である。

会長：電子書籍を読む機器も貸し出すのか。

事務局：機器を貸し出す例はあまり聞かない。

会長：自分のパソコン等で読むようになるのか。

事務局：そのとおり。

会長：記事によれば、立川市では小・中学校の生徒に利用カードを配付したら、3,000人の利用があったと掲載されていた。

事務局：立川市は、児童・生徒に専用IDを貸与したと聞いている。

委員：費用がかかるので、電子書籍から撤退する自治体もあるとも聞いたことがある。

事務局：新型コロナウイルス感染症対策の効果的な施策として、電子書籍は非来館型サービスの一環として全国的に広がり、国の交付金で初年度は賄えたものの、2年度目以降は交付金がなくなり、自治体の自主財源で賄うため、従来の図書費を削減せざるを得ない自治体が出てきている。

会長：小平市で電子書籍サービスを導入する場合、どの程度の予算規模が必要か。

事務局：小平市の規模では、数百万円の予算が必要になる。

会長：電子書籍については、次回も研究を続けていきたい。